

# 平成14年度科学研究費補助金の系・部・分科・細目表の別表

## 時限付き分科細目表

区分	分野	内容	部・分科・細目番号	設定期間
時 限 付 き 分 科 細 目	少年非行	近年、青少年の逸脱的行動の質的变化に社会の注目が集まっている。それらの行動は、個体の生物学的条件、個体を直接取り巻く家庭・学校・地域社会等の諸条件、さらにそれを取り囲む社会的・文化的諸条件が時間軸に沿って展開する複雑な相互作用の現れである。その過程の解明には、個別分野における詳細でシャープな研究と学際的なチームワークの両方を必要とする。非行に関して一般人・専門家・法執行機関・報道機関等がもつ概念の解明、非行の実態の正確な把握、非行の生起過程に関する縦断的・追跡的方法を含む実証的研究及びその生起過程に関する理論的モデルの構築、非行に対する矯正または予防プログラムの効果の評価、青少年問題全体の中での非行の位置づけを始めとした多様な研究が含まれる。	928	
	複合化集積システム	集積システムの機能を劇的に向上させるために、これまででない新しい材料・プロセス技術、新原理デバイス・回路、実装技術等の研究を行う。また、これらを取り込んだ新しいシステムアーキテクチャ或いはアルゴリズムの研究を融合的に発展させる。また、電気、光、機械、バイオ技術などを各種組み合わせることにより、多様で柔軟性の高い入出力系をもつ情報処理機能体、或いは生物のようなシステムの実現を目指す研究を行う。本研究分野は電子工学、電気工学、情報工学、システム工学、機械工学はもとよりバイオ工学などの分野における多様で新規な要素技術を有機的に結びつけ、柔軟で高機能な複合化集積システムを実現する基盤を確立することを目的とする。	929	平成12年度 ～ 平成14年度
	生物資源の変換と展開	地球環境保全型・資源循環型の物質生産体系の構築を目標として、生物資源を有効利用する生産システムの開発に向けた研究の展開が強く望まれている。このため生物機能のさらなる探索と開発をめざした生物科学の基礎研究および生物工学的応用研究を支援する。生物資源に由来する新規有用物質の探索と開発、未利用生物資源の資源化・原料化のための生物工学的システムの開発、生物資源を利用した有用物質生産、生物変換技術、代謝工学や遺伝子工学的技術に基づく物質生産プロセスの開発などが含まれる。	930	
	ジェンダー	女性学は、女性によって、女性にかかわるとされる事象を研究の主題とすることから始まり、身体、性、心理、労働、日常生活、芸術表現、社会活動、歴史的体験その他の多様なジャンルにわたって、専門的または学際的に進められてきた。生物学をはじめとする自然科学の近年の成果によれば、生物学的ないし医学的な性差(セックス)は人類を明確に二分するものではない。にもかかわらず、男/女の二項対立的な区分は、社会・文化における諸関係を構成する基本的な要素の一つとして機能しており、女性学はこの男/女の二分法に「ジェンダー」という語をあてた。セクシュアリティや表象など、従来は学問研究の主題とされにくかった種々の対象の考究が、女性学や、その影響のもとに生成した男性学およびジェンダー研究によって、一段と進展することが望まれる。また、ジェンダーに対して中立または無縁であるように見える事象や学問も、その中心概念や根本的な諸前提を構成するうえで、深くジェンダーに関与することが解明されつつある。本分野は、あらゆる対象・専門領域におけるジェンダー変数の作用を問題化する研究を含む。	931	平成13年度 ～ 平成15年度

区分	分野	内容	部・分科・細目番号	設定期間
時 限 付 き 分 科 細 目	水循環システム	地球の水は大気、海洋、河川、湖沼、雪原・氷河、地下を大規模に移動し、蒸発、降雨・降雪により相変化する。この水循環システムは地球の気候と生態系によってバランスが保たれている。現代社会では飲料水、食物生産、工業生産、電力源等の人間活動により水は大量に消費されており、水資源の枯渇等による水循環のバランスが失われる危険性がある。さらに今後は地球の温暖化に代表される気候変動による水循環システムへの影響もそのフィードバックも含めて無視できない。環境の保全と資源・エネルギーの有効利用のため、以上の問題解決のための開拓的・学術的研究を行う。	932	平成13年度 ～ 平成15年度
	生物多様性	生物多様性は生物ゲノムの経時的変化により引き起こされ、その後の遺伝的浮動、自然選択などを経てもたらされたものと考えられている。その過程は従来、記載の対象にすぎなかったが、近年、分子レベルでの解析技術の進歩により、実証的に解明しうる対象となってきた。ここでは、(1)生物の細胞構造、細胞内小器官、多細胞化、極性・位置情報システム、発生、形態・ポディプラン、生殖などの進化多様性を引き起こした機構、(2)多様性形成に関わる突然変異の集団内での維持・選択機構、そして(3)共生などによる新たなゲノム環境の確立など、生物多様性形成・維持の機構解明を目指した研究を行う。	933	
	非営利・協同組織	近年、NPO(非営利組織)、NGO(非政府組織)、あるいはそれを支えるフィランソロピー、ボランティアなど、民間非営利・協同セクターの活動が世界各国・地域で注目されている。 特に日本では、新たな官民関係を構築することが課題となっている中で、公共サービス供給のもうひとつの担い手として非営利・協同組織への期待は大きい。 阪神・淡路大震災を契機に非営利・協同組織制度を法的にも容認し、その国家的支援体制を整備しようとする運動が結実して、1998年に特定非営利活動促進法が公布された。 非営利・協同組織は、21世紀に向けて益々重要なセクターとなることが予想され、その科学的分析を進めるため、その組織、運営、財務、税制、人材養成、安全保障等に関する研究を行う。	934	
	ポストゲノムのナノサイエンス	ヒトゲノムの全塩基配列が解読された現在、その配列の持つ意味、生命機能との関連、医薬化成品開発などへの応用が急速に展開されようとしている。これらのゲノム情報を活用し、分子スケールおよびその集合体であるナノメータスケールでの科学的立場から、生命科学研究における全く新しい理工学方法論の開発を目的とする。分析化学、物理化学、有機化学、超分子化学、創薬化学、複雑系物理、生物物理、バイオインフォマティクスをはじめとして、物理、化学、薬学、情報科学さらには人文科学の広い分野での研究を対象とする。	935	平成14年度 ～ 平成16年度
	細胞死(アポトーシス)	生命の維持は、固体を構成する細胞群の増殖、分化のみならず、積極的な細胞死(アポトーシス)によって制御されている。この細胞死は遺伝学的に統制された生命現象である。細胞死は、発生過程における形態形成、免疫系の成立、病原体感染による細胞死、老化の機構、細胞増殖やホメオスタシスの維持などに深く関与している。細胞死の誘導には、ホルモン、抗原、ウイルス、放射線、薬物、活性酸素、活性窒素種などのシグナルが関わり、その実行は、種々の酵素系、転写因子等により制御される。本研究では、生物学、薬学、医学、農学などのバイオサイエンス分野において、動植物の生存戦略としての細胞死のメカニズムについて研究を展開する。	936	

(注) この表は、本表と併せて**基盤研究(C)(一般)**についてのみ適用されるものである。